

琉球大学精神科神経科の御案内

精神病態医学講座（精神科神経科）
三 高 裕（23期生）

同窓会の皆様初めまして。琉球大学23期卒業の三高裕と申します。今回は私が所属する高次機能医科学講座 精神病態医学分野（以下精神科神経科）の御紹介をさせていただきます。琉球大学精神科神経科のイメージを一言で表すならば、『やさしくてアットホームな科』ということです。これは、ポリクリ実習で回ってきた学生の方はよく御存知かもしれませんが、近藤毅教授、三原一雄准教授、外間宏人講師などの先生方もやさしい雰囲気と全身からかもし出していっています。

今回は、医学生や初期研修医の皆様が気になるであろう、精神科神経科の後期研修医がどのような生活を送っているのかを後期研修医の視点でお伝えさせていただきたいと思っております。

まず、精神科神経科の研修目標は、基本的な精神科診療技術を身につけることが前提ではありますが、当面の目標としては、精神保健指定医と精神科専門医の取得が挙げられます。これらは大まかに言うと、初期研修2年間+精神科研修3年を行うことで受験資格が得られるというものです。琉球大学精神科神経科では、入局者が全員これらの資格を取得できるよう、手厚いサポート体制が整っています。

そして、琉球大学精神科神経科に入局した場合の後期研修の大まかな仕組みですが、精神科研修の前半の4年間は、上記の資格を取得することを目標に県内の病院を1年ごとにローテーションします。精神保健指定医などの資格取得後の後半の4年間は、県内の病院で精神保健指定医として勤務し、地域医療に貢献します。その後は、大学院にて研究に打ち込む、内地に研修に出る、海外留学する、そのまま一般病院に就職す

るなどの選択は豊富です。

大学病院での後期研修医の一週間のスケジュールとしては、外来日（月・火・木・金）の午前中は外来補助係として、初診の患者さんの血液検査や心理検査をオーダーしたりします。午後は、病棟にて担当患者さん（2～3人程度）の診察をします。水曜日は教授回診があり、外来はお休みです。また、水曜日以外の平日に週一回、県内の精神科病院に日当直で外勤に行きます。

当直は琉球大学病院で月に約3回あります。救急外来に精神疾患で受診された方や、入院患者さんの対応を行います。対処が難しい場合は、上級医の先生がオンコールで待機していますので、すぐに相談できるようになっていますので安心です。

今回、この精神科医局の様子がイメージしやすいように細かな点まで報告させていただきましたが、精神科を志す医学生や初期研修医の皆さんに少しでもお役にたてれば幸いです。個人的な感覚としては、とても働きやすい環境だと思います。気になることがあれば、医局説明会などに参加したり、臨床研究棟8階の精神科医局を訪ねてみてください。

